

「拓け。J-POWER」

戦後の電力不足を解消するため1952年に設立されたJパワーは今年、70周年を迎えた。この間、一日も休まず電気事業を遂行し、今や国内の発電設備約1800万キロワット、海外は持分出力を含め約860万キロワット、合計約2660万キロワットの設備能力を持つ発電事業者だ。70周年を機にブランドメッセージ「拓け。J-POWER」を設定し、電力の安定供給と脱炭素化を実現するために、さまざまな挑戦を行っている。

PR

70年…電力安定供給の歴史

社会の要請に応え続ける



渡部 肇史 社長 一談

時代の節目で課題を克服することで70年間存立してきた。国内外に事業資産を持ち、事業内容が多様化し拡大した今日でも、何をもって社会に役に立っているかを常に問い続けることで存立していく本質は変わらない。

電力というエネルギーを安定的、継続的に供給するために、今までと大きく違う環境の中で未来を展望し、新しい答えを獲得する必要がある。そのため、2050年までのカーボンニュートラルを目指すビジョンとして

事業が進んでいく。その積み重ねで今日の多様な事業ポートフォリオができた。そして草創期にJパワーの礎を築いた佐久間発電所（水力）をアップサイクルする「NEXUS佐久間プロジェクト」や、海外火力時代の先駆けとなった松島火力の「GENESIS松島プロジェクト」など、歴史の転換点を象徴するプロジェクトも目の前にある。

70周年は大きな記念だが、長い歴史の中では通過点に過ぎない。一日一日の真剣な仕事を積み重ね、次の20年、30年に向けてしっかりと事業基盤を拡充、強化し未来の世代に引き継げるようにする。

カーボンニュートラルへ総力

次世代水力実現へ

NEXUS佐久間

戦後の電力不足を解消するために建設された佐久間発電所（浜松市）は、60年を経て設備は経年化した。このため20年代後半の着工を目指し、既存のダムや水路を流用しながら水車や発電機などの主要設備を最新技術で刷新する。地域や社会

から必要とされる次世代水力発電所を目指し「持続可能な未来（NEXUS）のために、我々（US）ができること」を考え、総合的に取り組む」という思いを込め「NEXUS」と名付けられた。

石炭ガス化を実用

GENESIS松島

松島火力発電所（長崎県西海市）は、国内で最初に海外産の石炭を使う火力発電所として建設された。その後の火力発電の可能性を広げた。脱炭素化の取り組みの一

つとして、松島2号機に新たにガス化設備などを設置してアップサイクルを行い、水素を含むガスでの発電を可能にする。大崎クール

実証した成果を実用化するものだ。既存の設備を活用しながら新技術を導入することで、経済的に早期にCO₂の削減が可能になる。

大規模洋上風力開発

風力発電事業

全国25地点（更新工事中含む）に合計持分出力約57万5000キロワットの陸上風力発電設備を保有する。英国では北海沿岸にある世界最大級の洋上風力発電所であるトライトン・ノールに事業参画し、22年4月に商業運転を始めた。この知見を生かし、北九州市などで大規模洋上風力発電に取り組んでいる。

・プルトニウム混合酸化物）燃料を使えるように設計された日本で唯一のフルMOX炉。
電力需給逼迫が懸念される中、国は脱炭素電源でもある原子力を本格活用する方針を決めた。安全確保を最優先に早期の運転開始を目指す。

64力国で実績

海外事業

海外事業は60年以上前から発電や送電のコンサルティング事業を行い64力国で実績がある。Jパワーは70年にわたり国内外で得た技術や知識をつぎ込み、アジアや米国などでの再生可能エネルギーを中心とした電力事業にも取り組んでいる。

フルMOX炉

大間原子力発電所

全炉心でMOX（ウラン



佐久間ダム

